

第2学年 国語科学習指導案

指導者 千葉市立〇〇〇〇小学校
教諭 〇〇〇〇
展開日時 10月17日(火) 14:00～

1 単元名 「絵を見てお話を書き、世界に一つだけの本を作ろう」

2 単元について

(1) 本単元で扱う主たる言語活動

3枚の絵をもとに登場人物を決めてお話を書き、世界に一つだけの本を作ること…B書くこと

(2) 単元観

本単元は、「3枚の絵を見てお話を書き、世界に一つだけの本を作る」という言語活動を展開する単元である。この言語活動を通して、「B 書くこと」の「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと」を指導していく。

本学級の児童は、昨年度から継続して、絵日記や日記、行事作文を書いている。また、昨年度はいろいろな詩に触れ、気に入ったものを視写したり書き換えたり続きを書いたりして世界に一つだけのアンソロジーを作った。そして今年度は、月に一度のペースで創作詩を書いている。これらの学習を通して、自分が経験したことやその時の気持ちを書くこと、出来事から想像を膨らませて短い言葉で書くことの経験を重ねている。しかし、中には日記や作文に苦手意識を持っており、なかなか書き進められない児童や、助詞や句読点を正しく使えない児童がいる。

本単元では、「絵を見てお話を書き、世界に一つだけの本を作る」という言語活動を設定し、まだ経験したことのない、自分で登場人物を決めてお話を書く学習に取り組ませたい。小学校低学年のこの時期、想像をふくらませて自分で作った話をするのが好きな児童も多い。そこで、本単元では想像をふくらませて考えたものを文として書き表し製本することで、好奇心を刺激し、感性を豊かにできると考えた。意欲喚起の一つとして、学区内にある千葉市図書館の司書の方に豆本の作り方を教えていただく。今回教えていただく豆本は、紙とホチキス、マスキングテープで作るA7サイズの小さな本で、「としょかんねずみ」(ダニエル・カーク作 わたなべてつた訳 瑞雲社 2012)で、主人公のねずみが作る本と同じものである。これにより児童は世界に一つだけの本を早く作りたいという思いを持ち、創作へ意欲的に取り組むだろう。また、図書館指導員と連携し、学校図書館にある単純な展開の絵本を集め、特設学級文庫を作る。それを自由に読んで創作の参考にできる環境にすることで、書くことが苦手な児童も無理なく取り組めると考えた。今回、教科書に出ている3枚の絵をもとにお話を書かせることで「はじめ、中、おわり」を意識して書くことができると考える。「はじめ、中、おわり」という3部構成は、内容のまとまりを意識させる簡単な構成で、特に中心をはっきりさせることができる。なお、つながりのある文や文章を書くためにはそれぞれのまとまりを正しい接続語でつなぐ必要があるため、朝学習などで継続的に短作文を書かせる中で接続語の指導をしていく。合わせて、表現の工夫や会話文、句読点の正しい使い方なども指導していく。登場人物を決める際には、優しい、ジャンプが得意などの人物像を決めさせ、お話の中で生かすようにさせる。これにより、友だちの作品との違いが出るため、世界に一つだけの本に近づけよう。さらに、清書したものをA5サイズに製本し、学級内で交流して子ども同士で感想を述べ合うことで、お話を書くことの楽しさや本が出来上がった満足感を味わわせたい。

(3) 本単元で付けたい力

(書く力) 絵をもとに登場人物や設定を決め、話を想像する力

(書く力) 語と語や文と文の続き方に気を付けて、まとまりのある文や文章を書く力

(4) 評価 (A: 十分満足できる B: 概ね満足できる)

付けたい力		児童のあらわれ
絵をもとに登場人物や設定を決め、話を想像する力	A	・絵をもとに、登場人物とその性格など話の設定を決め、それを生かし、話を想像して書いている。
	B	・絵をもとに、登場人物とその性格など話の設定を決め、話を想像して書いている。
語と語や文と文の続き方に気を付けて、まとまりのある文や文章を書く力	A	・順序や時間を表す語を正しく使うこと、句読点を正しく打つこと、文末の表現をそろえることに気を付けて書いている。 ・内容が混在しないように、まとまりを明確にして書いている。
	B	・順序や時間を表す語を正しく使うこと、句読点を正しく打つこと、文末の表現をそろえることに気を付けて書いている。

3 児童の実態

省略

4 単元の目標

- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりやつながりのあるお話を書き、世界に一つだけの本を作ることができる。(書くこと ウ)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
本作りに興味を持ち、3枚の絵をもとにお話を想像して書こうとしている。	語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりやつながりのあるお話を書いている。(ウ)	助詞の使い方、句読点の打ち方、かぎの使い方を理解して文や文章の中で正しく使っている。(エ、オ)

6 単元の指導計画（8時間扱い）

	学習内容と活動		指導上の留意点 (○) と評価 (◇)
一次 (1)	<p><単元の学習のゴールをつかむ></p> <p>○「としょかんねずみ」の読み聞かせや教師が作った豆本、3枚の絵から、気付いたこと、思ったことなどを話し合い、学習のゴールを決めよう。</p> <p>ゴール 世界に一つだけのお話の本を作ろう。</p> <p>そのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を決めたり絵から想像をふくらませたりして、お話を書こう。 ・書いたお話を本にしよう。 	短 作 文	<p>○「としょかんねずみ」の読み聞かせを聞いたり教師が作った豆本を見たりして、世界に一つだけの本を作りたいという興味や意欲をもてるようにする。</p> <p>○3枚の絵を提示し、気付いたことを発表し合う中で想像をふくらませ、お話作りが自分たちにもできそうだ、という気持ちをもてるようにする。</p> <p>◇世界に一つだけのお話の本を作りたいという意欲をもっている。(関心・意欲・態度)</p>
二次 (5)	<p><ゴールのための課題解決></p> <p>○千葉県図書館の方に教わって、豆本(A7サイズ)を作ろう。</p> <p>【ゲストティーチャー】</p> <p>○本のつくりを確認した後、教科書の作品例を見て、お話作りに必要なことを話し合おう。</p> <p>○3枚の絵から想像をふくらませて、登場人物やお話のメモを書こう。</p> <p>○メモをもとにお話を書こう。(2時間扱い)</p> <p>○挿絵を描こう。(課外)</p>	並 行 読 書	<p>○図書館所蔵の一番小さな本を見せてもらい意欲を高め、作り方を教わって豆本を作らせる。</p> <p>・</p> <p>○お話を作るには、登場人物の設定や会話文、状況の変化が必要なことに気付くように、教科書の作品例をもとに話し合わせ、自分のお話作りに活かせるようにする。</p> <p>○3枚の絵から想像をふくらませて、登場人物や特徴、お話の流れのメモを書く。</p> <p>○メモをもとに表現の工夫をしてお話を書かせ、清書させる。</p> <p>◇絵を見たり話し合ったりして想像した登場人物や出来事を、内容のまとまりが分かるように表現の工夫をして、メモや作文に書いている。(書く能力)</p> <p>◇助詞の使い方、句読点の打ち方、かぎの使い方を理解して文や文章の中で正しく使っている。(言語についての知識・理解・技能)</p>
三次 (2)	<p><製本し、読み合う></p> <p>○自分で書いたお話を製本しよう。(A5サイズ)</p> <p>○「世界に一つだけの本 おひろめ会」で作ひんを読み合い、感想を交流しよう。(本時)</p>		<p>○豆本を作ったときのことを想起し、清書したお話を製本させる。</p> <p>○世界に一つだけの本を読み合い、お気に入りの登場人物や話の面白いところについて、感想を交流させる。</p> <p>◇世界に一つだけの本を丁寧に製本している。(関心・意欲・態度)</p> <p>◇友だちが作ったお話の本に興味をもち、良さを見つけて感想を伝えている。(書く能力)</p>

7 研究の重点との関連

②確かな学びをはぐくむ学校図書館活用に関する研究

(児童生徒の学習意欲を喚起する資料の活用)

- ・特設学級文庫
- ・図書館指導員との連携
- ・「としょかんねずみ」

本校には、週4日図書館指導員がおり、毎週1時間の図書の時間には、読み聞かせや児童の興味に合った活動を取り入れてくれる。本単元では図書館指導員と連携し、本の仕組みが書かれている本や、学校図書館にある単純な展開の絵本をブックトラックに集め、特設学級文庫とする。必要な種類の学校図書館の本を教室内に用意することで、授業以外の時間にも手に取ることができ、お話作りや製本などへの意欲を喚起すると考える。また、自由に読める環境にすることで、登場人物の性格や話の展開など、設定を作る参考にでき、書くことが苦手な児童も無理なく取り組むだろう。

「としょかんねずみ」という絵本は、サムというねずみが創作文を書いて本にすることが書かれているため、読むだけで学習の流れを確認することができる。そのため、一次のゴールを設定する段階で読み聞かせをすることは、本単元の言語活動を捉えさせる有効な手だてだと考える。

③学校図書館の運営に関わる研究

(学校図書館と公共図書館との連携、協力体制の築き方)

- ・千葉市図書館との連携(年間3回)

地の利を生かし、昨年度までは1～3年生と特別支援学級が5・6月と9月の2回、訪問して読み聞かせや利用指導等をしてもらったり、資料閲覧をして貸し出してもらったりしていた。今年度は12・1月の訪問を増やし、さらに、学校に出向いていただく活動も入れた。この他にも、事前に連絡を入れれば、どの学年でもクラス単位で訪問することが可能である。

本単元でも、千葉市図書館職員の方が来校し、豆本の作り方を教えてくれ、図書館に所蔵している一番小さな本を持ってきてくれる。豆本作りにはハサミやホチキスを使うので、教室で落ち着いて活動できることと、学校図書館にはない資料を見せていただけることはとてもありがたい。今後も学校図書館だけでは補えない部分を公立図書館との連携で補って学習を進めていきたい。

8 本時の指導

(1) 本時の目標

- 友だちが作ったお話の本に興味をもち、良さを見つけて感想を伝えている。(書く能力)

(2) 本時の展開 (8 / 8 時間)

学習活動と主な内容	指導上の留意点 (○) と評価 (◇)
<p>1 学習のめあての確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「世界に一つだけの本 おひろめ会」で、作ひんのよいところをつたえ合おう。</p> </div> <p>2 おひろめ会の進め方の確認</p> <p>(作家) ・ 題名と登場人物の特徴を話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を読んでもらう。 <p>(客) ・ 作家の説明を聞いてから作品を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お気に入りの登場人物や作品の面白いところはどこかを伝える。 ・ 「読者の声カード」に書いて渡す。 	<p>○おひろめ会はペアで行い、作家と客の立場になることを知らせる。</p> <p>○作家の立場に立つ時は、「○○先生 新作 おひろめ会」の看板を出し、客の立場に立つ時には「読者の声カード」を用意することを確認する。</p>
<p>3 おひろめ会 (交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 回目のペアで交流する。(12 分間) ・ 2 回目のペアで交流する。(12 分間) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(児童 A) 作家</p> <p>『ウサギききいっぱつ』という題で、勇敢な鳥とおっちょこちょいなウサギが出てくるお話です。ぜひ読んでください。」</p> <p>(児童 B) 客</p> <p>「勇敢な鳥が、海に落ちそうになったウサギを空から助けていたので、鳥が気に入りました。リンゴを取ろうとして足を滑らせるなんて、おもしろいですね。」</p> <p>※この後 A が客、B が作家に代わり同じように進める。</p> </div>	<p>○作家が登場人物の特徴を先に説明することで、客の読む視点を明確にさせる。</p> <p>○客は「お気に入りの登場人物」と「作品の面白いところ」という2点で感想を伝え、カードに書かせる。</p> <p>○ペアで作家、客の役割を交代し、どちらも経験する。</p> <p>◇友達が作ったお話の本に興味をもち、良さを見つけて感想を伝えている。(書く能力)</p> <p>○早く終わったペアは、フリースペースで自由にペアを作り、読み合う。 (読者の声カードの交換はなし。)</p>
<p>4 本時・本単元の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勇敢な鳥が、海に落ちそうになったウサギを空から助けていて本当に勇敢だな、と思った。 ・ 風に飛ばされて海に落ちたリンゴをクジラが潮吹きで届けたのが面白かった。 ・ 世界に一つだけの本が出来上がって嬉しい。 ・ みんなの本を読んで楽しかった。 ・ またお話を作ってみたい。 ・ 他の本も読んでみたい。 ・ 公共図書館の先生にも完成した本を見せたい。 	<p>○全体で本時の活動を振り返り、感想を共有する。</p> <p>○本単元の活動を振り返り、まとめとする。</p>

